



在京古高同窓会会報 第52号

〒352-0031 新座市西堀2-17-37 在京古高同窓会事務局
FAX (042) 494-1598
Email skyoji@jcom.home.ne.jp

発行責任: 曾根 研一
編集長: 亀井 明
印刷: (株)ケーヨー

新春のご挨拶

会長 高橋 俊裕



合うか真剣に考える時だと思おうのです。私達の孫子の代に平穏な生活を残すためにも。

さて、昨年の7月の総会には、内閣官房副長官加藤勝信氏に時局講演会をお願いしました。学生会員も熱心に聴いていただき、懇親会では活発に意見交換が行われていました。9月には後輩のタカラジャンヌ連つかさ君のミュージカルと観劇、そして激励会を行いました。旧古川女子高からも参加いただきました。

あけましておめでとうございます。会員の皆様にはお健やかに新年迎えられることとお慶び申し上げます。さて、昨年はアベノミクス効果もゆるやかながらも成果をあらわし、株価大幅上昇などで、重苦しい雰囲気も和らいできました。また、2020年の東京オリンピック開催決定も久し振りに明るい夢をもたらしてくれました。

しかしながら、本年は消費税増税の影響や地球温暖化での気候変動など、色々不安な要素もはらんでいます。

特に原発問題は一向に出口が見えません。今、原発反対の人は7割いると云われています。原発廃止と決めたからと云って放射能の脅威がなくなるわけはありません。廃炉まで50年以上かかると云われています。むしろこの間に原子力に関わる人材がいなくなったら大問題になるでしょう。福島問題とは切り離して、原子力とどう向き

10月は恒例となったふるさと探訪ツアーを実施。母校訪問のあと、トヨタ東日本工場見学、慶長遣欧使節400周年にからめて、支倉常長ゆかりの地をたずね、大崎八幡宮をはじめ伊達正宗関連の建造物など、宮城県が有する国宝のほぼ全てを見学いたしました。懇親会は本部・在仙の有志も参加、宮床温泉で大いに盛り上がりました。このツアーは毎度のことではありますが、盛り沢山の見学箇所があり、私達が知らなかった地元が紹介されます。企画を担当していただいた方々にあらためて御礼申し上げます。

さて、念願の在京同窓会のホームページが本年度には立上がる予定です。これによって会員の意見交流・本部同窓会・ふるさと等の情報もより活発に発信できるようになります。他方では、財政厳しい同窓会運営にも資することが出来ることを企図しております。開

在京同窓会メモ

- ・会計年度は4-3月、年会費は一口2,000円です。
- ・会の健全運営のため、振替用紙が同封された方には、納入をお願い致します。
- ・次回会報第53号は2014年6月1日発行予定、原稿は常時受付。

発に携わった皆様のご苦勞に改めて御礼申し上げます。

最後になりましたが、1月25日(土)は恒例の旧古川市内四校同窓会の新年会です。お友達誘い合わせて多数の方の参加を期待しております。本年も皆様のご多幸を念じて新年のご挨拶といたします。

新年のご挨拶

古川高等学校校長 鈴木 悟



在京同窓会の皆様、新年明けましておめでとうございます。

まず新校舎落成するというおめでたいニュースから紹介させていただきます。この1月17日に引き渡されることが決定し、当日仮設校舎から新校舎に、机・椅子を運び入れる手はずが整いました。スクールカラーの紫を薄めた柔らかなイメージの校舎です。今後、内覧会などを企画していこうと思っておりますので、お出かけください。

新校舎建設と軌を一にして、故亀谷徳兵衛氏(旧制古中第5回生)からの寄付金からなる古高育英会が解散の運びとなりました。その

際、理事会から、基金を古高の学習環境の整備と冬期の部活動充実を図る設備に使用して欲しいという申出がありました。大変嬉しいことです。

そこで、11月に、個人用学習机80セットを雪雪会館2階の雪雪学習室に設置しました。また、この3月を目前に、トレーニング室を建設中です。

本校生が、文武両道を究める環境の充実度がさらに高まります。生徒諸君には、こうした先輩たちに対して、感謝の気持ちを忘れずに、日々精進するよう伝えているところであります。

さて、もうすぐ東日本大震災から丸3年目を迎えます。古高生には、「日々の学習がやがて東日本大震災復興の力になる。自分の頑張りは自分のためだけではない」という気持ちのみなぞっています。そうした心身の充実が、進路や部活動の結果に少しづつではありますが、表れています。

まず、特筆すべきは、自然科学部化学班の全国総文祭最優秀賞です。こうした全国レベルの部に刺激を受け、写真部も来年度の全国総文祭への出展が決まりました。県大会で優秀な成績を修めた吹奏楽部・合唱部・演劇部を含め、古高文化部が底力を見せています。

また、ソフトボール部が、5年ぶりに県新人大会で優勝し、春の全国選抜大会に出場することが決まりました。運動部も、陸上部は常に東北大会出場者を出し、バレーボール部・バスケットボール部は県ベスト8に名を連ね、剣道部・卓球部・サッカー部も、県上位進出に顔を出しています。

文武両道に励み、高い志をもって飛躍する古高生を、今後ともよろしく願っています。

お知らせ

第21回 旧古川市内四校関東同窓会「新年の集い」

【日時】平成26年1月25日(土)
11:00~総会
11:45~公演 「みやぎの民話」を語る
“大友かえ”の昔語り
(大友かえ:大正9年三本木町生まれ)
12:45~15:00懇親会

【会場】上野精養軒
JR上野駅公園口から徒歩5分
電話 (3821-2181)

【会費】8,000円

『むがす あったづ おんな ほれ』全61話の中から

1. 「尻つたれ嫁子」 語り: 渡辺 星幸 (黎明高S39年卒・東大崎出身)
2. 「節分に豆まくわけ」 語り: 鈴木ナカ子 (黎明高S39年卒・三本木出身)
3. 「猫が鼠を捕るわけ」 語り: 佐野三千代 (黎明高S39年卒・古川出身)

ナレーター: 佐野三千代
資料提供: 相澤 昭男
(古高S31年卒・三本木出身・大友かえの親戚)
音響: 猪股 淑 (古工S38年卒・宮崎出身)
企画: 古川学園同窓会関東支部
協力: みやぎおらほのことば会



本部同窓会事務局だより

新年のご挨拶

古川高校同窓会
会長 渡邊 義之



在京同窓会の皆様、新年おめでとうございます。今年も皆様方がご健勝でご活躍されますよう心からご祈念申し上げます。

先ずは同窓会の近況ですが、昨年8月の総会には150人以上の会員が参加され、盛会のうちに開催できました。大変お忙しところ参加して頂きました在京の高橋会長さんをはじめ在京の役員の方々に改めて謝意を表する次第であります。

昨年の総会后、各支部の活動が活性化するための一つの方策として、支部活動の旗印となるようとの願いから、母校の旗と同じ蛍雪の徽章を印(しる)した紫紺(しこん)の支部旗を贈ることに致しました。本年中には各支部にこの旗が行渡ることになります。

次に母校のことですが、在校生は文武両道のスローガンのもと、各分野で見事な活躍をされており、南校舎も昨年の12月には竣工し、古高の新しい時代の幕開けが始まると感じております。また数年後

には母校が創立120周年を迎えますので、これに向けて同窓会として何ができるかを考えてまいります。

私は会長として、同窓会の有様(ありよう)は、同窓生が母校に何かをしてもらうのではなく、同窓生が母校、とりわけ在校生に対して何をすべきかを考えるのが大切なことだと思っております。

それ故に、同窓生の役割は同窓生としての蛍雪の絆を強めながらも、母校の生徒一人一人の活躍を支援して行くことにあると考えます。これからも同窓諸氏のお力添えを得ながら全力を傾注して母校を支えて行く所存でありますので、在京の皆様方に一層のご支援とご指導を賜りますようよろしくお願い致します。

終わりに、在京同窓会の今後益々のご発展を衷心より祈念し、新年の挨拶と致します

近況報告

事務局長 工藤 昭裕



在京同窓会の皆様、新年あけましておめでとうございます。

昨年も、本部総会を始め各支部総会等、いずれも大盛会に終了することができました。特に本年度は、渡邊会長の発案で「在京にな

らって各支部に旗を寄贈しよう」ということになり、各支部の総会で贈呈しているところですが、本部旗も作製しましたので、今回の総会でご披露いたします。

また、本年度より、会報の郵送方法を変え、これまでの予算の半分以下の経費で済ませることができました。さらに会費納入方法も、郵便局扱いにコンビニ取扱を加えたことで、会費納入の利便性を図ったところです。

さて、古川高校は仮設校舎2年目の生活を送っておりますが、不自由な生活にもめげず、日々文武両道に邁進しております。その新校舎も震災の影響で工事が延び延びになっていましたが、ようやく完成し、1月中旬に晴れて新しい校舎での生活ができることになりました。

さて、本校同窓会は創立103年目に入りました。本年度の本部総会は8月10日(土)に地元大崎市「芙蓉閣」にて、140名の参加者を迎え、盛大に開かれました。当日は震災による被害者を含めた物故者への黙祷、校歌斉唱から始まり、渡邊義之同窓会会長、鈴木悟校長からの挨拶の後、在京同窓会会長高橋俊裕様、関西蛍雪会会長松谷篤郎様からご祝辞を頂きました。

報告事項として、本年度も3名の在校生に奨学金を授与したことを報告しました。その後議案審議に移り、平成24年度の事業報告、決算

報告、平成25年度の事業計画案及び予算案が承認され、総会は終了いたしました。尚、決算報告の中で、震災義援金の決算報告も行い、古高生の被災者へ就学給付金を支給したことも承認されました。

また、午後2時40分からは記念講演が行われ、本校昭和40年・第17回卒で、中国科学院大学教授の佐々木力氏に、「21世紀東アジアの自然哲学」と題して、国際情勢を踏まえ、これからの日本の進むべき道等をご講演いただきました。

その後、講演者を交えて記念撮影を行い、続いて行われた懇親会は昨年に引き続き、新卒者も加え、大いに盛り上がりを見せた楽しい会となり、大成功のうちに本年度の総会を終了いたしました。

総会後の主な行事としては、10月17日・18日の両日に渡って「ふるさと探訪ツアー12013」が在京同窓会役員の皆様のご尽力で開催されました。本年は、多賀城などの歴史探訪とトヨタ新鋭工場を訪ねる、というテーマで母校訪問

新南校舎完成予定図



から、七つ森・船形山麓の自然を堪能し、夜は滝ノ原温泉で懇親会を行い、30名を超える参加者の皆さんと夜遅くまで語り合い、大いに盛り上がりました。

今後とも同窓会活動に変わらぬご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

情報処理のエキスパート 完成図書・デジタル化総合サポート

電子納品作成支援 おまかせください!

導入から成果品まで専任スタッフがきめ細かく対応しバックアップいたします。

専任スタッフ・有資格	
CALS/ECインストラクター	10名
電子化ファイリング	2名
文書情報管理士 1級	1名
2級	3名

代表取締役会長 早坂清吉 (昭和29年卒)

内科・小児科 長井内科

院長 医学博士

長井弘策

〔昭和31年卒(高8回) 古川高校同窓会副会長〕

〒989-6154
大崎市古川三日町1-3-25
TEL 0229 (91) 1020



株式会社 ケーヨー http://www.keyo.co.jp E-mail:info@keyo.co.jp
本社 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町 4-1-6
☎ 03-3242-0191 FAX 03-3242-0167

総会報告

平成25年度

平成25年度定時総会開催

7月6日 上野精養軒

平成25年度の定時総会は7月6日(土)の11時半から、東京台東区の上野精養軒に於いて開催されました。

◇

亀井明氏(昭55年卒)司会による開会宣言の後、物故者への黙祷、本部同窓会の工藤昭裕事務局長(昭49年卒)の指揮による校歌斉唱に続いて、高橋俊裕会長の力強い挨拶で議事の進行が始まりました。議案については次の5つが審議され、いずれも原案通り承認されました。(4面参照)

〔第1号議案〕

平成24年度活動報告承認の件

(議案説明 曾根副会長)

〔第2号議案〕

平成24年度の決算報告及び監査報告の件

(議案説明 佐々木事務局長)

(監査報告 児玉監事)

〔第3号議案〕

平成25年度活動計画案承認の件

(議案説明 曾根副会長)

〔第4号議案〕

平成25年度予算案承認の件

(議案説明 佐々木事務局長)

〔第5号議案〕

役員選任案承認の件

(議案説明 門脇副会長)

なお、新役員として、鹿野軍勝

氏(昭36年卒)が副会長に選任されました。

鹿野軍勝氏は古川・東大崎の出身。東京大学法学部卒業後外務省に入省。コロンビア大使、ヴァチカン大使を歴任されるなど外交官として活躍された後、2007年に外務省を退職されました。

◇

従って、今年度の役員は次の通りです。

- 会長 高橋 俊裕 (S33年卒)
- 副会長 門脇 健 (S24年卒)
- 副会長 春田 紘輔 (S27年卒)
- 副会長 曾根 研一 (S30年卒)
- 副会長 鹿野 軍勝 (S36年卒)
- 事務局長 佐々木基次 (S38年卒)
- 編集長 亀井 明 (S55年卒)
- 監事 児玉 隆行 (S36年卒)
- 監事 佐々木文博 (S42年卒)

◇

来賓として、本部同窓会の相澤信副会長(昭35年卒)、在仙同窓会の斎藤範夫副会長(昭48年卒)、母校の志貴一元教頭にご臨席頂き、昨今の故郷の様子や母校生徒の活躍を伺うことが出来、母校との繋がりに改めて喜びを感じました。

◇

総会の部終了後の講演の部では、加藤勝信内閣官房副長官「写真下右」から、「これからの政局展望」アベノミクスの成長戦略、外交戦略そして安倍総理の描く日本の将来など」と題してご講演を頂きました。参議院選挙を目前とした大変お忙しい日程にも関わらず、安倍政権内部の現役の閣僚である加藤内閣官房副長官から、少子高齢化が進展し、社会保障費が高騰する中



で、日本の成長戦略をどう考えるべきか、また日中関係などの難しい政治問題をどう乗り切るべきか、といった点について安倍政権の考え方を直接伺うことができ、大変貴重な機会となりました。

今回の定時総会及び懇親会には、古高卒業生で関東地区の大学・学校に在籍する学生10名「写真左」を含めて、総勢71名が参加しましたが、昨年に引き続き、若手女性



同窓生が参加してくれ、平成17年に共学となった新生古川高校の変化を改めて感じた会となりました。懇親会では、若手男女同窓生から一言挨拶を頂き、賑やかな写真撮影も行われました。

また、加藤内閣官房副長官にも懇親会の前半参加頂きましたが、今回参加の在京同窓生の中で最高齢である高橋昭典氏(昭20年卒)が国税庁勤務の現役時代に、当時大蔵省勤務であった加藤内閣官房副長官が同じ税務署に出勤中で、一緒に仕事をしたエピソードなどが披露されるなど、会場は大いに盛り上がり、大変楽しい宴となりました。



懇親会の締めめの挨拶は角田啓輔氏(昭26年卒、元卓球日本代表選手)

平成26年度の定時総会は6月21日(土)に同じく上野精養軒で開催予定です。今回参加出来なかった皆様も、次回は是非ご参加ください。

(文責 昭61年卒 渡邊博之)

平成25年度 定時総会出席者名簿 (敬称略)

〔来賓6名他〕

- 相澤 信 (同窓会副会長 S35年 古川出身) 斎藤 範夫 (在仙副会長 S48年 鳴子出身)
- 志貴 一元 (教頭 会津若松出身) 工藤 昭裕 (同窓会事務局長 S49年 中新田出身)
- 高橋 英文 (市長代理=大崎市市民協働推進部長 S47年 古川出身) 真山 隆宏 (みやぎ大崎観光公社常務理事 S59年 岩田山出身)

〔会員55名〕(カッコ内は出身地)

- 昭20 高橋 典蔵 (古川)
- 昭22 高松 健 (古川)
- 昭24 門脇 隆 (古川)
- 昭26 藤田 啓太 (古川)
- 昭27 藤田 隆 (古川)
- 昭28 中川 裕久 (古川)
- 昭29 佐藤 隆 (古川)

- 昭29 佐藤 隆 (古川)
- 昭30 藤田 隆 (古川)
- 昭31 藤田 隆 (古川)
- 昭32 藤田 隆 (古川)
- 昭33 藤田 隆 (古川)
- 昭34 藤田 隆 (古川)
- 昭35 藤田 隆 (古川)
- 昭36 藤田 隆 (古川)
- 昭37 藤田 隆 (古川)

- 昭30 和渡 義吉 (古川)
- 昭31 和渡 義吉 (古川)
- 昭32 和渡 義吉 (古川)
- 昭33 和渡 義吉 (古川)
- 昭34 和渡 義吉 (古川)
- 昭35 和渡 義吉 (古川)
- 昭36 和渡 義吉 (古川)
- 昭37 和渡 義吉 (古川)

- 昭38 阿部 重忠 (古川)
- 昭39 阿部 重忠 (古川)
- 昭40 阿部 重忠 (古川)
- 昭41 阿部 重忠 (古川)
- 昭42 阿部 重忠 (古川)
- 昭43 阿部 重忠 (古川)
- 昭44 阿部 重忠 (古川)
- 昭45 阿部 重忠 (古川)
- 昭46 阿部 重忠 (古川)
- 昭47 阿部 重忠 (古川)
- 昭48 阿部 重忠 (古川)
- 昭49 阿部 重忠 (古川)
- 昭50 阿部 重忠 (古川)
- 昭51 阿部 重忠 (古川)
- 昭52 阿部 重忠 (古川)
- 昭53 阿部 重忠 (古川)
- 昭54 阿部 重忠 (古川)
- 昭55 阿部 重忠 (古川)

〔在京学生10名〕

- 平23 倉木 大 (古川)
- 平24 倉木 大 (古川)
- 平25 倉木 大 (古川)

在学先

- 埼玉大学
- 尚美学園大学
- 青山学院大学
- 信州大学
- 駿河台大学
- 英城大学
- 慶應義塾大学
- 関東学院大学
- 慶應義塾大学

<第1号議案> 平成24年度 活動報告

平成24年4月1日～平成25年3月31日

年月日	活動内容	場所
平成24年 5月26日(土)	会報「蛭雪49号」と総会案内発送(会員883名)	信陵会館
7月7日(土)	定時総会、懇親会 演奏：曾根麻矢子氏(チェンパロ)	上野精養軒
8月4日(土)	本部同窓会総会出席(曾根副会長、佐々木事務局長) (高橋会長、曾根副会長、佐々木事務局長)	大崎市「芙蓉閣」
10月25日(木)	会員交流会「ふるさと探訪ツアー2012」	古川～平泉～田尻
10月26日(金)	～世界遺産「平泉」と宮城の明治村「登米」を訪ねて～	南三陸町～登米～仙台
12月15日(土)	会報「蛭雪50号」及び四校合同新年会案内の発送(会員870名)	信陵会館
平成25年 1月26日(土)	「第20回 旧古川市内四校関東同窓会 新年の集い」開催 (幹事校：古高) (古高 71名、黎明 70名、古工 38名、古学 40名 四校来賓 4名、計223名出席)	上野精養軒
2月16日(土)	在仙同窓会臨時総会出席(佐々木事務局長)	KKRホテル仙台
3月1日(金)	「東京蛭雪賞」授与、並びに古高卒業式出席 (高橋会長、大友監事)	古川高校

<第3号議案> 平成25年度 活動計画案

平成25年4月1日～平成26年3月31日

年月日	活動内容	場所
平成25年 6月2日(土)	会報「蛭雪51号」と総会案内発送(会員893名)	信陵会館
7月6日(土)	定時総会、懇親会 講演：加藤勝信氏(内閣官房副長官)	上野精養軒
8月10日(土)	本部同窓会総会出席	大崎市「芙蓉閣」
9月21日(土)	蓮つかさ 観劇会と囲む会	東京宝塚劇場～学士会館
10月17日(木)	会員交流会「ふるさと探訪ツアー2013」	古川～トヨタ工場～塩釜
10月18日(金)	～宮城の国宝や多賀城の歴史探訪とトヨタ新工場を訪ねる～	松島～多賀城～仙台
12月22日(日)	会報「蛭雪52号」及び四校合同新年会案内の発送	信陵会館
平成26年 1月25日(土)	「第21回四校合同新年会」開催 (幹事校：古川学園高校関東支部)	上野精養軒
3月1日(土)	「東京蛭雪賞」授与、並びに古高卒業式出席	古川高校

- ◎役員・幹事会：信陵会館
 第1回 H.24年 5月26日(土) 18名(総会運営他)
 第2回 H.24年 9月29日(土) 14名
 (在京・本部総会報告、50号会報発行内容他)
 第3回 H.24年12月15日(土) 13名
 (「ふるさと探訪ツアー」報告、四校新年会準備他)
 第4回 H.25年 3月24日(日) 14名
 (四校新年会報告、定時総会準備他)

- ◎四校合同幹事会：東京文化会館会議室他
 第1回 H.24年10月30日(水)
 第2回 H.24年11月30日(金)
 第3回 H.25年 1月17日(木)
 第4回 H.25年 2月23日(土)
 古高出席者：曾根 佐々木(恭) 大友(文)

- ◎役員・幹事会：
 定例は年間4回、その他必要事案により
 関係役員・幹事会を開催
 第1回定例6月2日開催：総会運営他
 第2回定例10月5日開催予定：総会報告他

- ◎四校合同幹事会：
 四校合同新年会(H26.1.25)にむけて、
 10月下旬から1月
 中旬までの間に3～4回開催する。
 古高出席者：曾根 佐々木(恭) 上野 大友(文)

第2・4号議案 平成24年度決算／平成25年度予算

収入の部

科目	H24年度決算額	摘要	H25年度予算額
年会費	724,000	313名 362口 @2,000/370口	740,000
広告料	80,000	企業・個人広告	80,000
寄付・祝儀金	24,700	個人寄付	30,000
雑収入	27,735	総会・新年会他 剰余金	50,000
収入計	856,435		900,000
前期繰越金	1,523,572		1,270,439
合計	2,380,007		2,170,439

支出の部

科目	金額	摘要	金額
会議費	170,855	役員・幹事会資料代他	80,000
印刷費	526,070	会報、案内状、封筒他	480,000
事務用品費	7,344	コピー・文具代他	10,000
事務所経費	57,700	信陵会館年間契約料他	60,000
通信費	192,416	電話、切手、はがき他	180,000
慶弔費	53,000	東京蛭雪賞他	80,000
旅費交通費	66,400	本部総会、卒業式出席旅費他	100,000
活動費	2,100	ホームページ開設準備等	40,000
雑費	33,683	年会費振込手数料他	1,100,000
支出計	1,109,568		1,070,439
次期繰越金	1,270,439		2,170,439
合計	2,380,007		

会員による自由投稿

山歩き雑感(3)

昭30年卒 三塚 正志



大雑把にいうと、山は尾根と谷から構成され、登山道は尾根上、谷(沢)沿い及び尾根斜面に造られている。長時間豪雨が降っても、雨水は尾根の両側に流下するので、尾根上のみは健全である(雨水が尾根上の凹部を流下し、みちを荒らすことがある)。これに対し、尾根斜面のみちで流水によるみちの崩壊、沢沿いのみちでは橋の流失や崖崩れの発生がときどき起こる。このような理由から、昔は尾根上にみちが造られていた。昭和20年代まで尾根みちは交易、生活、山仕事などのみちとして重要であった。

の境界、②生活・交易・宗教のみち、③山仕事・狩猟・山菜採りのみち、④生活用薪炭・牛馬飼料用草運搬のみち、⑤登山者・獣のみち、⑥高圧送電線鉄塔・通信や放送用電波塔の設置(近年)などである。したがって、地形図に破線の山径の記載がなくても、多くの尾根上には踏跡がある。昔は荷物運搬の主役は牛馬であり、背の両側にそれぞれ炭俵2〜4俵を背負っていた。荷物を背負った牛馬の幅は1.5mであった。尾根みちでは、尾根上の樹木を2〜3m幅に伐採すれば、牛馬の離合もできた。尾根の急斜面や沢の崖部分に1〜1.5m幅のみちを造ることはむずかしい。沢みちでは橋が必要である。丸木橋や下部の見える橋を牛馬は渡れない。橋は洪水によって流されることもある。このような理由から、昔は尾根にみちが造られていた。

山道が造られることが多い。「道に迷ったら尾根に登れ」とも言われている。尾根には大小のピークがあるので、尾根上を忠実に辿るとアップダウンが多くなる。昔の尾根みちには、これを避けるため巻道が造られている。登山者は、巻道があれば利用するが、尾根上を忠実に辿ることが多い。奥多摩町や檜原村では、現在でもかなりの高所に集落がある。例えば、奥多摩町では鷹ノ巣山南麓の標高800〜900mに奥集落と峰集落が、檜原村では御前山南東麓の標高600〜700mに湯久保集落と尾根通集落がある。製炭を生業にする人は、伐採と炭焼きを山中で行い、尾根みちを利用して製品を市場へ運ぶ。山仕事従事者は、山中が仕事場である。したがって、これらの人々は飲料水が得られるならば、高所に住むのが便利である。大正12年発行の1/5万地形図(五日市)によると、高所に多くの集落が認められる。水川(現奥多摩町)と青梅の間には数馬峠(ゴンザス尾根南端、写真)があり、多摩川沿いに牛馬みちは造れなかった。多摩川上流の小河内村・丹波山村・小菅村の人々は青梅より遠い五日市の市場に

檜原村史によると(1980年版)、「村内を南北に分断する浅間尾根(写真参照)は、檜原の中央道として、今の国道級の存在だった。(中略)終戦後は、南北両秋川に沿う道路の開発と交通機関の発達によって、浅間尾根の通行者はほとんど途絶え、路面は老廃化した。ところが、近年都会地からの登山客が浅間尾根を歩くようになった。(後略)」。この文章は、「尾根みちの昔と今」を端的に表現している。

戦後は土木工事中用重機が発達し、トンネルや長大橋の建設が容易になり、川沿いに車道が、谷や尾根に林道が建設された。荷物運搬は牛馬から自動車に、家庭用燃料は薪炭から化石燃料に替わった。山仕事には林道と自動車利用されるようになった。木材価格の下落は山仕事自体を減らした。この結果、山村住民の尾根みち利用は激減した。代わって、登山者が尾根みちを利用するようになった。

尾根上は歩き易く、展望が利くので、尾根上は登山道が造られることが多い。「道に迷ったら尾根に登れ」とも言われている。尾根には大小のピークがあるので、尾根上を忠実に辿るとアップダウンが多くなる。昔の尾根みちには、これを避けるため巻道が造られている。登山者は、巻道があれば利用するが、尾根上を忠実に辿ることが多い。奥多摩町や檜原村では、現在でもかなりの高所に集落がある。例えば、奥多摩町では鷹ノ巣山南麓の標高800〜900mに奥集落と峰集落が、檜原村では御前山南東麓の標高600〜700mに湯久保集落と尾根通集落がある。製炭を生業にする人は、伐採と炭焼きを山中で行い、尾根みちを利用して製品を市場へ運ぶ。山仕事従事者は、山中が仕事場である。したがって、これらの人々は飲料水が得られるならば、高所に住むのが便利である。大正12年発行の1/5万地形図(五日市)によると、高所に多くの集落が認められる。水川(現奥多摩町)と青梅の間には数馬峠(ゴンザス尾根南端、写真)があり、多摩川沿いに牛馬みちは造れなかった。多摩川上流の小河内村・丹波山村・小菅村の人々は青梅より遠い五日市の市場に

尾根の役割は、①行政・所有権

に、近年東京近郊の山に入る登山者は増えている。登山者は藪みち、狭いみち、崩落池、丸木橋、渡渉などどこでも歩くことができ



か(浅小)落(五日)集(馬)落(馬)尾(南)根(端)の(湖)馬(ザ)望(望)む(ゴ)丸(丸)岸(右)下(右)白(右)丸(右)下(右)尾(根)根(南)端(端)に(湖)馬(ザ)望(望)む(ゴ)丸(丸)岸(右)下(右)白(右)丸(右)下(右)尾(根)根(南)端(端)に

生産品を運んだ。主なコースは、「小河内〜鞆口峠〜数馬〜浅間尾根〜本宿〜五日市」、または「小河内〜風張峠〜倉掛尾根(または浅間尾根)〜本宿〜五日市」であった。これらのコースは古甲州道と呼ばれ、この浅間尾根が冒頭の檜原村史の尾根である。

消えゆく

老兵のつばやき

昭20年卒 高橋 昭典



私は昭和20年の旧制5年制卒で年齢85歳。出席者の最古参ゆえ懇親会の乾杯の音頭をということになり「写真」、改めて出席者名簿を見直してみて感じたことは次の三つ。老兵の呟きである。

その一は、私達の学年は、「国家の品格」に藤原正彦教授が「旧制中学はエリート養成機関」と書いた旧制中学の最後の卒業生だということ。旧制の古川中学は、大崎4郡(志田、遠田、加美、玉造)で唯一の普通科中学で、最高の学府で一年生150名の狭き門だったから、私達は「大崎大学」と豪語し、市民もそれを許してくれたが、今の古川高校は大崎4郡内にある普通科高校10校の1校だといふのであれば、それはあまりにも淋しいなど老兵は心配していた(平成19年8月古高同窓会報「戦時下の旧制古中44回生の青春」参照)。

その二は、会員名簿を見て、平成の卒業生の会員は僅か2名(全員欠席)には驚いた。平成も25年経ち、卒業生も7千人になるのに何故2名なのか。これは大問題で、このままでは「在京古高同窓会」の将来はない。もう直ぐ新制古高出身生だけの会になるのだから、若い世代の人が多く集まる会に早く盛り立てていただきたい。

その三は、古中も到頭「男女共学」かなという驚きである。総会に参加した9人の卒業生の在京学生の中には、孫の年代の若い4人の女子学生がおり、卒業生からタカラジャンヌが誕生したと聞いて今昔の感一人。

だが、今の若い後輩男女の明るい屈託のない姿を見ると共学もいいなと思ひ、私達が戦後築きあげた平和な御世の弥栄をお祈りしたい気持ちになるから不思議。

とにかく私達の時代は女人禁制で、高等女学校の運動会や田中絹代の映画「愛染かつら」は変装しないと見に行けず、行けば必ずばれて、翌朝校庭東南角の射撃場の隅で上級生から鉄拳制裁、私は運動会で3発、映画で3発殴られた。

ところで今回よりも嬉しかったことは、①今をときめく加藤官房副長官から生々しい政治のトツプの話を生近に聞けたこと、そして②母校の志貴教頭先生から古川高校の地位が向上しているという力強い報告を頂いたことである。

「古川高校が他校より優れているから是非」という志願者が増えていくということだが、これは「大崎大学」復活の証左で、私達旧制古中生には嬉しい話で万々歳。「10校中の1校」では淋しい思いでいた消えゆく老兵には何よりの饒別の言葉。私は後輩の努力に感謝し、母校の弥栄を祈念した。

「ふるさと探訪ツアー2013」

今年のおふるさと探訪ツアーは、10月17-18日(泊2日)に宮城県内全ての国宝探訪と、トヨタ工場見学でした。

トヨタ工場見学だけで総勢31名になり、また今年ユネスコから国宝支倉常長とローマ教皇パウロ五世像にローマ市民権証書が「世界記憶遺産」に登録と、支倉常長の慶長遣欧使節渡航400年の記念にあたるという時機を得たものとなりました。

夜の懇親会も本部、在仙の方々と交流を深められ、大変な盛り上がりとなりました。

(事務局 昭38佐々木恭次)

我が古高を訪ねて

昭43年卒 早坂 胞吉
今回初めての参加です。ふるさと探訪で一泊であつたので参加しましたが、温泉に入り、夜の部の宴会で諸先輩と色々語り合ひ、カラオケを歌い、楽しく良かったですね。

最初に母校訪問、卒業以来の訪問ですが、大学受験で卒業式にも出席出来なかつたので非常に懐かしかったです。

校舎も当時の面影は無く、校庭位でした。校長室に案内され、これも初めてですね。校長先生がお茶を立てて振舞う。非常に美味しく頂きました。校長先生が立ってお茶を飲みながら、生徒さんの進路指導等やられているのかなと思われました。



鈴木校長茶せん

また廊下の壁に古高卒北大学長の杉野目晴貞先生、大志を抱けが貼ってあり、修学旅行で北海道に行つた時、北大のク

く、非常に興味を持ちました。実際支倉常長の遣欧の話は聞いていますが、当時の船でメキシコ経由でローマまで行き、帰って来ている想像を絶する航海ですね。帰国後の経緯は聞きましたが、大変な生涯だったと思いました。

松島、塩釜は年に数回通過してありますが、瑞巖寺の杉林が震災で大きく変わっているのはびっくりしました。また円通院は初めてですが、こんなに庭が綺麗なところが有つたのかと感心し、再訪を楽しみにした次第です。



円通院にて

瑞鳳殿は一度行ってみたいと思つていたので、非常に興味深く拝見しました。時間があまりなく残念でしたが、来客があつた時案内出来るようにもつと詳しく見ておきたいと思いました。

追記になりますが、自動車関連の会社にいたのでトヨタ自動車東日本(株)は楽しく見学させて頂きました。

今回のツアー企画、下見もされてるようで非常に良かったですね。企画された在京古高同窓会事務局

トヨタ工場見学

昭36年卒 近江 寿

10月17日(木)「ふるさと探訪ツアー2013」で、トヨタ大衡工場を見学してまいりました。私達昭和35年度卒業生から、会長の成田良正さんを先頭に、富澤義男さん、沼津啓太郎さん、鹿野軍勝さん、それに私の5名が参加させていただきました。

トヨタ工場は私も初めての見学で、乗用車の殆どの製造がオートメーション化され、精密な人間の腕のように動くロボットが全工程ラインに並び、組み立てていく姿には驚きました。しかも生産量は2分間に1台の割合でつくられ、工場の門からはトレーラーで次々に全国に搬送されていることにもびっくり致しました。



トヨタ工場にて

私達がなげなく日常使用している乗用車は、まさに人類の近

代科学技術の最先端の到達が込められていることに驚きました。体育館のような広い工場で働く人々は、大きな工場に必要所に配置されているだけで、これまた相当な訓練と経験がないとできないのでしよう。研ぎ澄まされた神経と労働でどんなに大変なことだろうなあと、思いを馳せながらの見学でした。

帰る途中「万葉の森」にてコーヒを一服し、はるか万葉の時代に思いを馳せながら、ゆったり過ごし、日帰りだけの参加で失礼しましたが、ホットな気持ちで家路に着いた良かったです。

古高同窓生の先輩諸氏が、今や日本中の各界でご活躍されておられる姿に直に接し、古川高校の同窓生の一員としての自覚と誇りを感じながら、有意義な一日を過ごさせていただけましたこと、関係者の方々に心からの感謝を申し上げます。またの機会にも、お元気で会えますように願ってやみません。本当にありがとうございました。



浦霞酒蔵にて

- 「ふるさと探訪ツアー2013」参加者(敬称略)
- 【本部同窓会】 渡邊義之(昭34) 相澤 信(昭35)
 - 【在仙同窓会】 中島正三(昭27) 宮城洋三(昭27) 高橋健三(昭30) 堀越五郎(昭30) 荒谷正咲(昭38) 菅原四郎(昭38) 千葉治郎(昭40) 早坂胞吉(昭43) 鈴木忠司(昭49)
 - 【在京同窓会】 門脇 健(昭24) 夫妻 門脇喜代志(昭30) 横山 武(昭30) 高橋俊裕(昭33) 夫妻 渡邊紘也(昭33) 鹿野軍勝(昭36) 佐々木恭次(昭38) 上野正司(昭39)
 - 【懇親会のみ】 小西洋一(昭27) 高橋威男(昭33) 鎌田政章(昭38) 今野良郎(昭38) 佐沢史朗(昭39) 工藤昭裕(昭49) 大山義男(昭56)
 - 【トヨタ工場見学のみ】 近江 寿(昭36) 富沢義雄(昭36) 成田良正(昭36) 沼津敬太郎(昭36) 後藤 琢(昭38) 他

ふるさと探訪ツアーは もつと観るところあり！ 昭38年卒 菅原 四郎

今回、私はふるさと探訪ツアーに初参加させて貰い諸先輩などにお会いし、お話ができた事は非常に有意義で、楽しい2日間を過ごさせて頂き感謝いたします。

参加者の方々は、多種多様で移動時間が多く、探訪時間が少なく、強行日程で疲れたと言いつつ体力、忍耐力と探究心は、さすが伝統と船形おろしに鍛えられた健児図南の古高魂を秘めた古高OB諸先輩の姿を垣間みた探訪ツアーでした。

また懇親会には、旧友と数年、数10年ぶりに会う為、検診と用事の合間を利用、乗り物を2〜3回乗り継ぎ来た人や仕事を早く終わらせ、40km以上離れた町から地元を酒を持参し、再会を喜び、酒を酌み交わし、近況や昔話を報告しあい、別れを惜しみ、又の再会を期して、帰る友を見送る姿に絆の深さを感じられました。

今回の探訪ツアーの一番は、何と言っても自動車の工場見学でしょう。地元の商工会や自動車整備振興会が見学を申し込んでも拒否され、小学生とか一部の人しか見学出来ない中、高橋OB会長のおかげで2時間も見学できた事は感謝感激です。

最初に感じたのは建屋が船形、泉ヶ岳おろしを避ける為に南北に向け配置し、建屋間の通路に強風や風雪除けの風雪セット等を配置していたことです。工場近くには、吹付(ふつけ)と云う地名の地吹雪の名所があります。製造ラインも吊り下げ方式から

リフトアップ方式を採用、配列も縦列方式から横並び方式を採用している事でした。ある蓄電池メーカーでは、縦から横方式を採用し2倍の生産量になったと聞いています。

工具等も1台/1人の台車でスライドさせ、動作ロスの減少を図る等様々な工夫に感心させられました。

地元・大衡村や工業団地内の各社と提携し地域連携を図ると共に、敷地内でパブリカ生産、新車の出荷、輸送等グループ各社に分散化、独立採算化しているのは、さすが世界のトヨタと感心しました。

瑞鳳殿は10数年ぶりに拝観しましたが、昔、馬で参拝したと云われる段差の高い石段は、年配の先輩方々には、登るのは大変だったことでしょう。ここも時間の都合上、二代藩主「忠宗公の感仙殿」、三代藩主「綱宗公の善応殿」等が拝観できませんでした。



瑞鳳殿にて

仙台市博物館では「伊達政宗と

支倉常長の特別展」が開催されていましたが、時間切れで半分位しか観られなかったのが、地元なのか後日、再度、鑑賞した結果、日本各地と海外のスペイン等から「支倉常長」等に関する資料が展示されています。



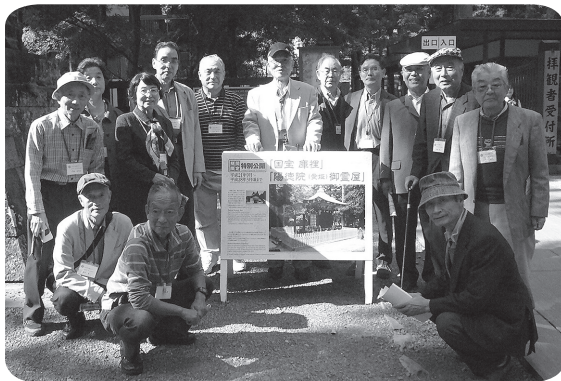
支倉常長像前にて

ある説には、今から400年前

に「慶長三陸大津波(1611年)」があり、伊達政宗が震災復興と人々の仕事の一環として、当時キリスト教の禁教が始まったにも関わらず、メキシコ、スペインとの交易を考えて、徳川家康、秀忠に懇願、徳川家も西の豊臣、北の伊達の挟み撃ちを懸念、洪々承諾。既に材料等を準備していた政宗は、徳川の奉行の監視下でサンファンパウティスタ号を完成させ、震災2年後に出航したと云われています。奇しくも今年、東日本大震災後3年になります。

とにかく今回は行程がきつく、瑞巖寺ではこちらの調査不足で特別公開中の庫裏や隣接の寶華殿を参観できませんでした。

提案、一例として松島なら、塩釜から松島への遊覧船観光や四大観「富山(麗観)、扇谷(幽観)、大高森(壯観東松島市)、多聞山(偉観 七ヶ浜町)」の1〜2か所の探訪や小船での奥松島(嵯峨湊 東松島市)の鑑賞、瑞巖寺の左側の円通院などの秋のライトアップ、右側の通徳院(瑞巖寺の禅専門道場)やその後方に在る寶華殿(政宗公の正室愛姫の靈廟所 瑞鳳殿と同様、豪華絢爛) 探訪するとか、8月の松島灯籠流し花火大会や塩釜の港祭りに合わせるかどうかどうですか。



瑞巖寺にて

最後に、今回宿泊した上流には、時間がなかったので伝えませんが、大きくはありませんが溪流と滝があり、「滝の原温泉」の名前の由来になっており、散策するのも一興です。

宿の庭には、御衣黄と云う珍しい桜があり、開花時にはライトアップもされます。また、七つ森の各頂上には薬師

如来が祭られ、毎年11月3日もしくは第一日曜に1日で参拝する七薬師掛けが朝6時頃に集合して実施されます。健脚に自信のある方は是非参加して下さい。

七つ森の主峰笹倉山(標高500m、地元では大森山)の登山口には駐車場(5〜6台)もあり、途中の登山道も整備され、通常30〜40分位で登山でき、春にはカタクリの群生が観られ、頂上から蔵王連峰、栗駒山、泉ヶ岳や太平洋等が眺望でき、途中でカモシカに会えるかもしれません。

今回見学出来なかった恋多き歌人と云われた原阿佐緒館や伊達政宗の孫、初代宗房公等を初めとした宮床伊達の御廟や宮床の由来と云われる坂上田麻呂の時代に天皇が宿泊した(宮が床についた)信楽寺(シンギョウジ)等があり、興味ある方は再訪下さい。仙台伊達家五代藩主吉村公の出身は、宮床で八代將軍吉宗も一目おいいたと記述があります。



滝の原温泉(ちどり荘)にて

蓮つかさ 宝塚観劇・囲む会

9月21日(土)蓮つかさ(平21卒 新見好美)さん出演の宝塚観劇(東京宝塚劇場)と囲む会(学士会館)を行いました。

在学当時の山本校長夫妻に、元担任・佐々木貴芳先生と友人、同期生7名に萩原・千坂さん(旧古川女子高・黎明高)に加え、岩出山から中島さん一家、仙台から相澤夫妻に、つかささんの兄・新山英亮さん(平20卒)も駆けつけ、当初の何人集るのか危惧の念は吹き飛んでしまいました。

初めての観劇とワイワイとつかささんを囲んで話が盛り上がり、この機会に毎年1回励ます会を行う事にしました。同窓生ばかりでなく、蓮つかささんを応援される方は誰でも参加できます。世話役の伊勢谷一郎・美紀夫妻には大変お世話になりました。

(蓮つかささん囲む会事務局 昭38佐々木恭次)



蓮つかささんを囲んで

「蓮つかさ囲む会」にて

平21年卒 佐々木里菜

今回、観劇と囲む会の開催を『蜜雪』で知り、首都圏に住む友人たちに声をかけ、同窓会のような気持ちで参加しました。当日は、初めての宝塚にワクワクしながら劇場へ向かい、思い出話に花を咲かせていると、あつという間に開演時間になりました。

第一幕のミュージカル『ルパン』は、怪盗ルパンことアルセーヌ・ミステリータッチのハラハラ・ドキドキする展開と、「上手くいきそうで上手くいかない」恋愛模様との両方が織り交ぜられていて、ストーリーにぐっと引き込まれました。緊迫した場面も多いのですが、タスクと会場が笑いに包まれる場面もあって、楽しく観ることができました。つかささんが登場した場面の中で私のお気に入り、黒いシルクハットを目深に被り、黒いマントに身を包み踊るシーンです。出で立ちもさることながら、音楽とマッチした踊りがとてもよかったです。第二幕は、レビューといわれる、



「蓮つかさ」観劇・囲む会参加者(敬称略)

- 【観劇のみ】
工藤昭裕(昭49)夫妻 佐々木貴芳・古高教諭(元担任) 鹿野軍勝(昭36)夫人
- 【囲む会】
山本照夫(元校長)夫妻 中島源陽(昭56) 家一(昭36) 曾根研一(昭30) 高橋俊裕(昭33) 鹿野軍勝(昭36) 佐々木恭次(昭38) 相澤次男(昭44) 夫妻 新山英亮(平20) 蓮つかさ(兄) 川名貴子(平21) 菊田聖子(平21) 佐々木里菜(平21) 佐藤芽里(平21) 中島里織(平21) 松本尚子(平21) 柳橋歩里(平21) 萩原節子(黎明高同窓会関東支部長) 千坂須美子(黎明高同窓会関東副支部長) 他

●在京会諸兄の動静に、いつも刺激をもらっています。老々介護ながら地域の絆づくりに役立てばと、ラストステージの有意義な迎い方を語る会など、自宅を集いの場にして世話役を楽しんでいます。(S24三浦澄能)

●健康維持のため、定期的に病院はしておりますが、元気に過ごしております。(S27氏家明朗)

●毎日を大事にと心掛けております。(S27佐藤清勝)

●耳も遠くなり、足腰も危くなって来ましたが、ボランティアの日本語教師の仕事だけは社会貢献の一助にと頑張っております。(S27菅原峯雄)

●喜寿を迎えましたが、臨床医として働いています。第1・第3土曜日は診療日です、夕方まで予約患者がギッシリです。(S29金原章郎)

●一人はそれぞれ事情をかかえながら平凡と生きている。これは、私の好きな仙台在住の作家・伊集院静の言葉である。結婚した女優・夏目雅子も白血病で亡く、多くの辛苦をなめてきた人。われわれ凡人は、どんな状況でも、平然と生きたいものです。(S29三浦憲一)

●都山流尺八(古典新曲、中心)、陶芸(縄文土器、野仏埴輪)、郷土歴史の調査・記録。(S29湯本良師)

●メールで碁を打つのを楽しんでいます。現在、公式戦で3人、自由な対局で2人の計5人と対局している。次の一手も考え乍ら、囲碁の勉強も欠かさない。去年の秋の公式戦で1勝をあげたのが大きかった。囲碁の本を読み直す機会が多くなった。(S30木村哲彌)

●新築から30年近く住んだ向ヶ丘遊園のマンションを「ついの住み家」と決めておりましたが、10月末に娘と同じマンション(世田谷区砧1-2-12・404)に移転しました。これまで妻が、娘の演奏スケジュールに合わせて、電車やバスで家事手伝いに通ったり、泊まったりしてきましたが、今はエレベーターで1階と4階を行き来しております。(S30曾根研一)

●昨年(24年)9月より千葉県交通安全推進隊の隊員になり、週1回地元元

会員通信

●6月上旬、長野県に出張し、別所温泉の国宝・六角三重の塔を観て感激し、帰りに塩田町の「無言館」まで歩き、画学生の力作に涙しました。私の戦死した父と同時期に南方で若くしてその才能を競争に奪われた英霊に深く黙祷。(S30横山 武)

●原発事故被災地の復旧は遅々としていきます。東北は捨てられて行くのではないかとその時は日本も崩壊へ向うけれども。(S38いわき市 高坂クリニック阿部重人)

●会報51号を拝見させていただきました。会報作成や事業計画の努力に敬意を表します。仕事は第2の定年を迎えましたが趣味の将棋や地域のボランティアに精をだしています。(S38高橋忠世)

●趣味の囲碁をやっています。松戸市には、同窓生は何人住んでいらっしゃいます。(S39高橋勝雄)

心よりご冥福をお祈りいたします

六戸 衛氏 (昭17年卒)
高橋 慎一氏 (昭28年卒)
早坂 治男氏 (昭36年卒)
残間 忠夫氏 (昭38年卒)
佐藤 啓三氏 (昭40年卒)
平成25年1月11日
平成25年2月
平成23年6月
平成25年1月2日
平成25年6月6日
(前号までの広告掲載ありがとうございました)

レコードがCDに、ワープロがパソコンに、電話がスマートフォンに、ビデオテープがDVDやブルーレイに、カセットテープがMDやCD・Rに、そのMDでさえ最近では凋落傾向で、フロッピーディスクは既に販売を終了しております。30年ぶりの引越を完了、150枚のLPレコードや、数え切れないほどのビデオテープ等を処分しました。記録媒体への対応が大変です。(曾根)

編集後記